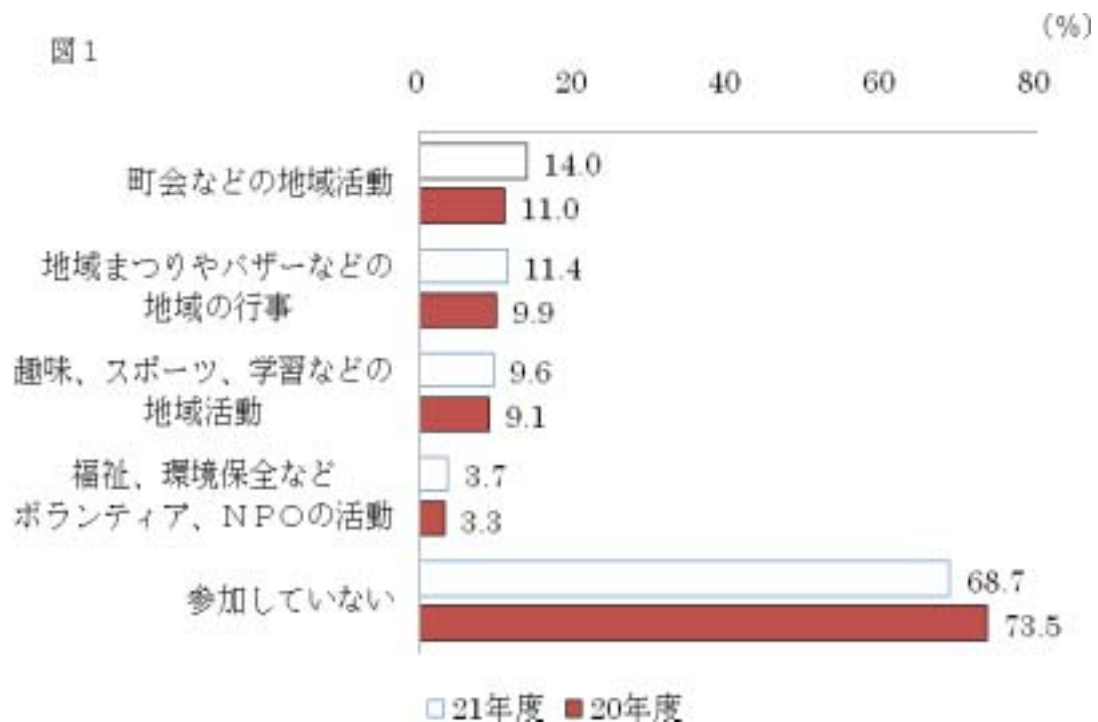


# 保健福祉に関する意識調査結果の考察

中野区では、区民の保健福祉に関する関心や保健福祉サービスに対する意見などを把握し、事業や施策の見直し・改善、目標の達成度を測る指標として活用するため、毎年度保健福祉に関する意識調査を実施しています。

## 1 地域活動への参加状況について

昨年度の結果と比べると、「参加していない」と答えた方の割合は 4.8 ポイント減少し、何らかの地域活動に参加していると答えた人の割合は増加しています。(図1)

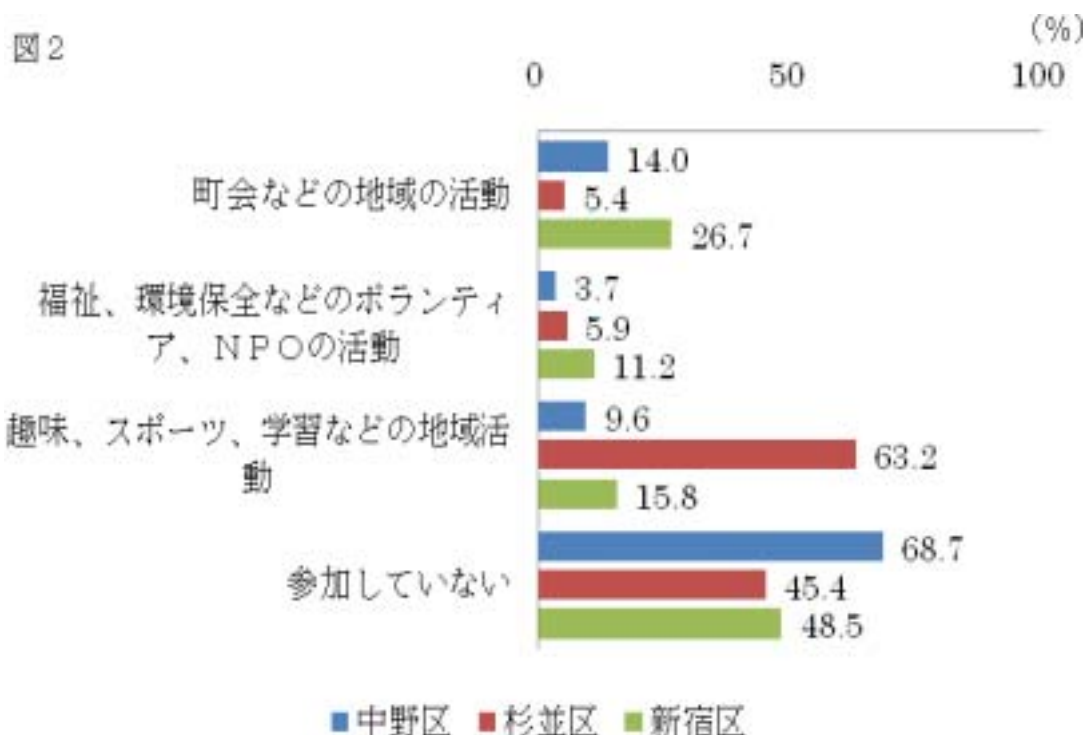


出典：

「平成21(2009)年度保健福祉に関する意識調査報告書」P13

「平成20(2008)年度保健福祉に関する意識調査報告書」P59

なお、他区（杉並区、新宿区）の状況と比べると、中野区の特徴は、地域活動に「参加していない」と答えた人の割合が高い一方で、「町会などの地域の活動」への参加が比較的高いことです。（図2）



出典：

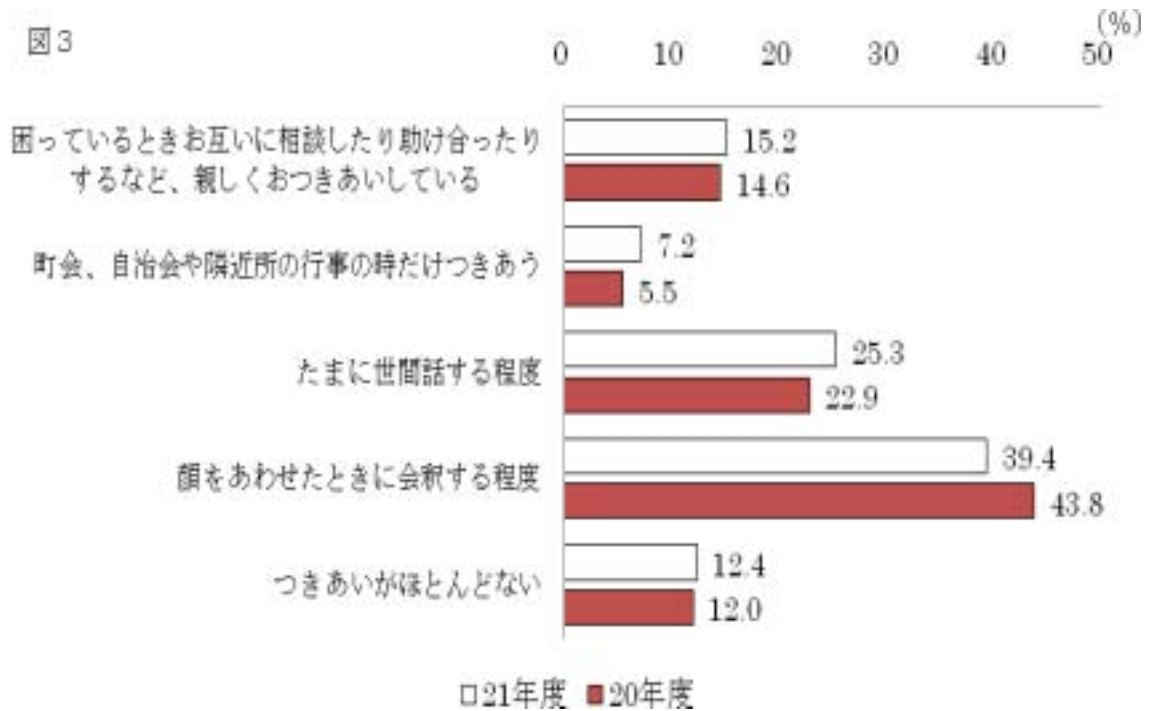
新宿区：「平成20年度新宿区区民意識調査」

杉並区：「第40回杉並区区民意向調査「区政に関する意識と実態」」

注：質問項目は各区の調査によって異なるため、類似の質問項目の集計数値を用いています。また、質問形式が複数回答となっているものは、合計が100%とならない場合があります。

## 2 近所づきあいの程度について

近所づきあいの程度については、「つきあいがほとんどない」と答えた人の割合は変わりませんが、「顔をあわせたときに会釈する程度」と答えた人が減少し、「たまに世間話する程度」等の項目に増加が見られ、近所づきあいの密度に変化が見られました。(図3)



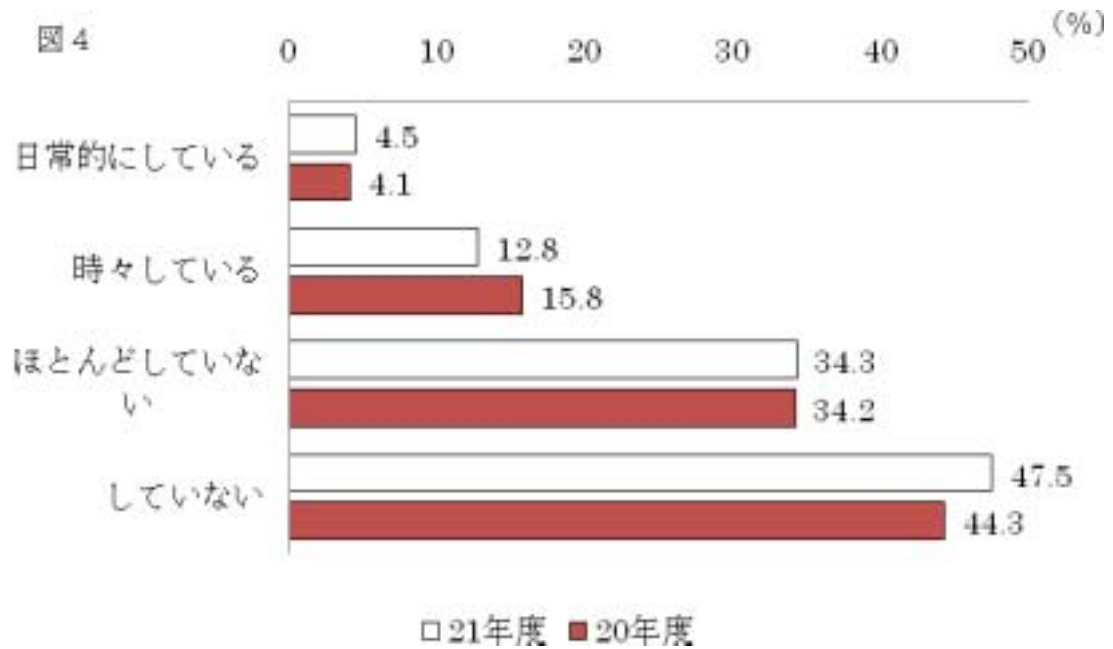
出典：

「平成21(2009)年度保健福祉に関する意識調査報告書」P18

「平成20(2008)年度保健福祉に関する意識調査報告書」P64

### 3 地域住民間の見守りや支えあいの活動状況について

地域住民間の見守りや支えあいの活動状況については、昨年度と比べると「時々している」と答えた人の割合は減少し、その分「していない」と答えた人の割合が増加しました。（図4）



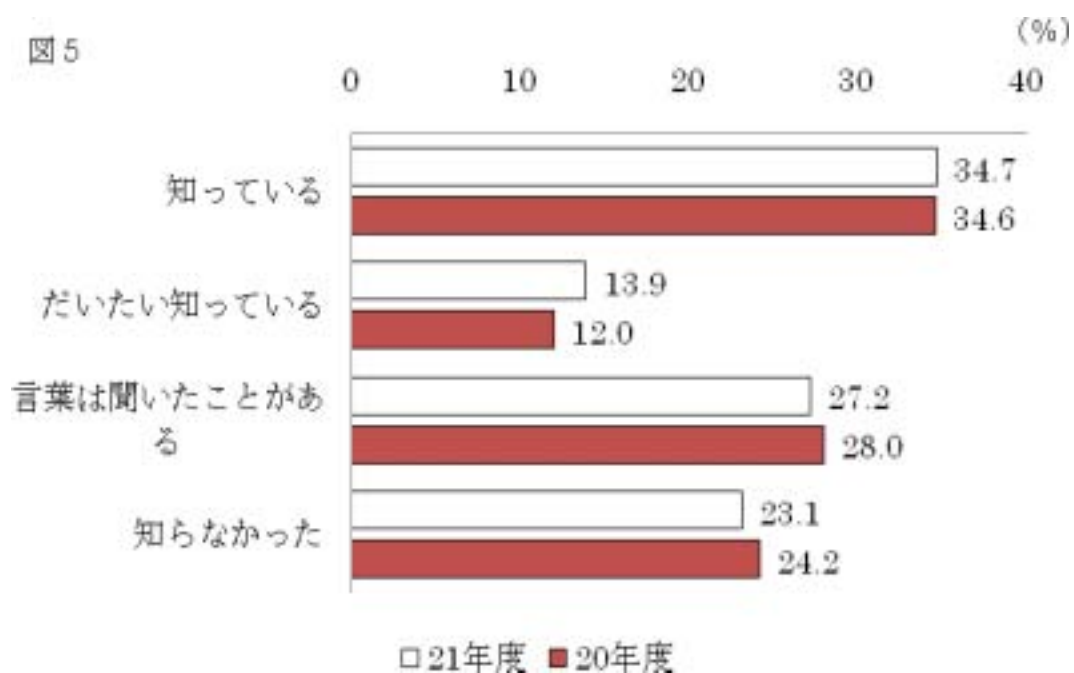
出典：

「平成21（2009）年度保健福祉に関する意識調査報告書」P21

「平成20（2008）年度保健福祉に関する意識調査報告書」P70

## 4 民生委員の活動の認識の度合い

民生委員の活動の認識の度合いについては、全体の傾向は変わらず、4分の1弱の人に民生委員について知られていない状況にあります。(図5)



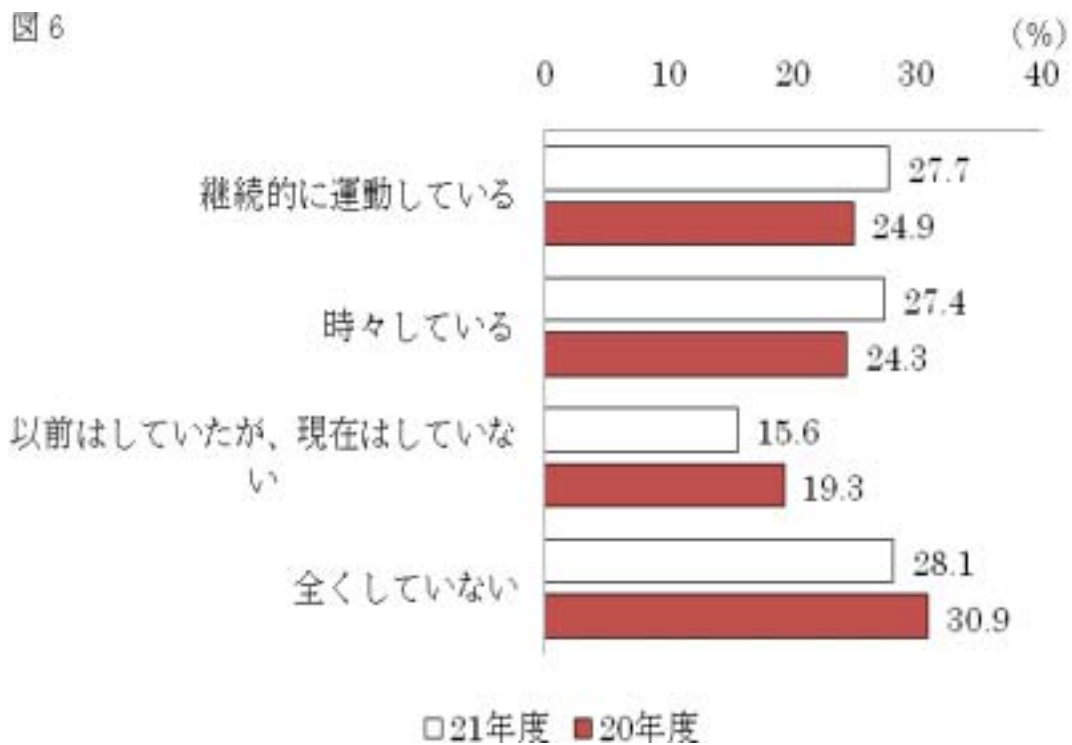
出典：

「平成21(2009)年度保健福祉に関する意識調査報告書」P26

「平成20(2008)年度保健福祉に関する意識調査報告書」P73

## 5 健康増進のための運動習慣について

運動習慣については、今年度は「連続して30分以上の運動」という条件をつけて質問しましたが、昨年度と比べ、「継続的に運動している」、「時々している」と答えた人の割合が増加しました。(図6)



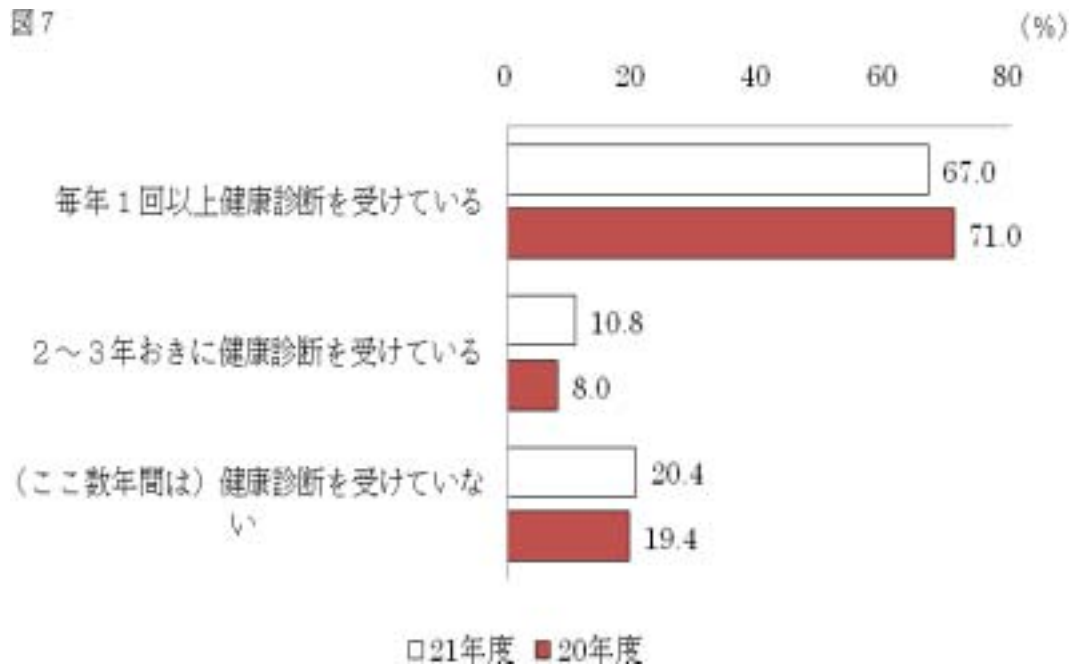
出典：

「平成21(2009)年度保健福祉に関する意識調査報告書」P28

「平成20(2008)年度保健福祉に関する意識調査報告書」P16

## 6 健康診断の受診頻度について

昨年度と比べ、「毎年1回以上健康診断を受けている」と答えた人の割合は4ポイント減少しています。(図7)



出典：

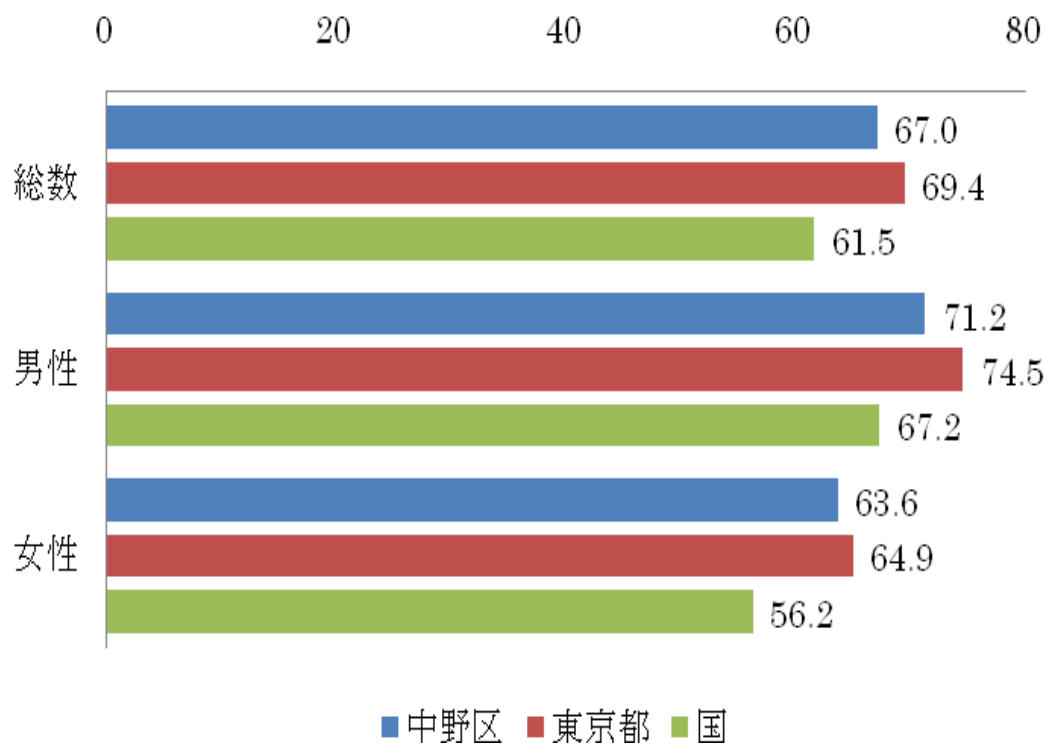
「平成21(2009)年度保健福祉に関する意識調査報告書」P30

「平成20(2008)年度保健福祉に関する意識調査報告書」P20

また、過去1年間の健康診断や人間ドックの受診の有無について、類似調査による東京都平均及び全国平均と比較すると、全国平均よりは高い数値を示しているが、東京都平均より下回っていることがわかります。(図8)<sup>1</sup>

<sup>1</sup> 「平成21(2009)年保健福祉に関する意識調査」の問7「あなたは、定期的に健康診断を受けていますか」の中で、「毎年1回以上健康診断を受けている」と答えた人の割合を数値として用いました。

図8 過去1年間の健診や人間ドックの受診の有無 (%)



出典：

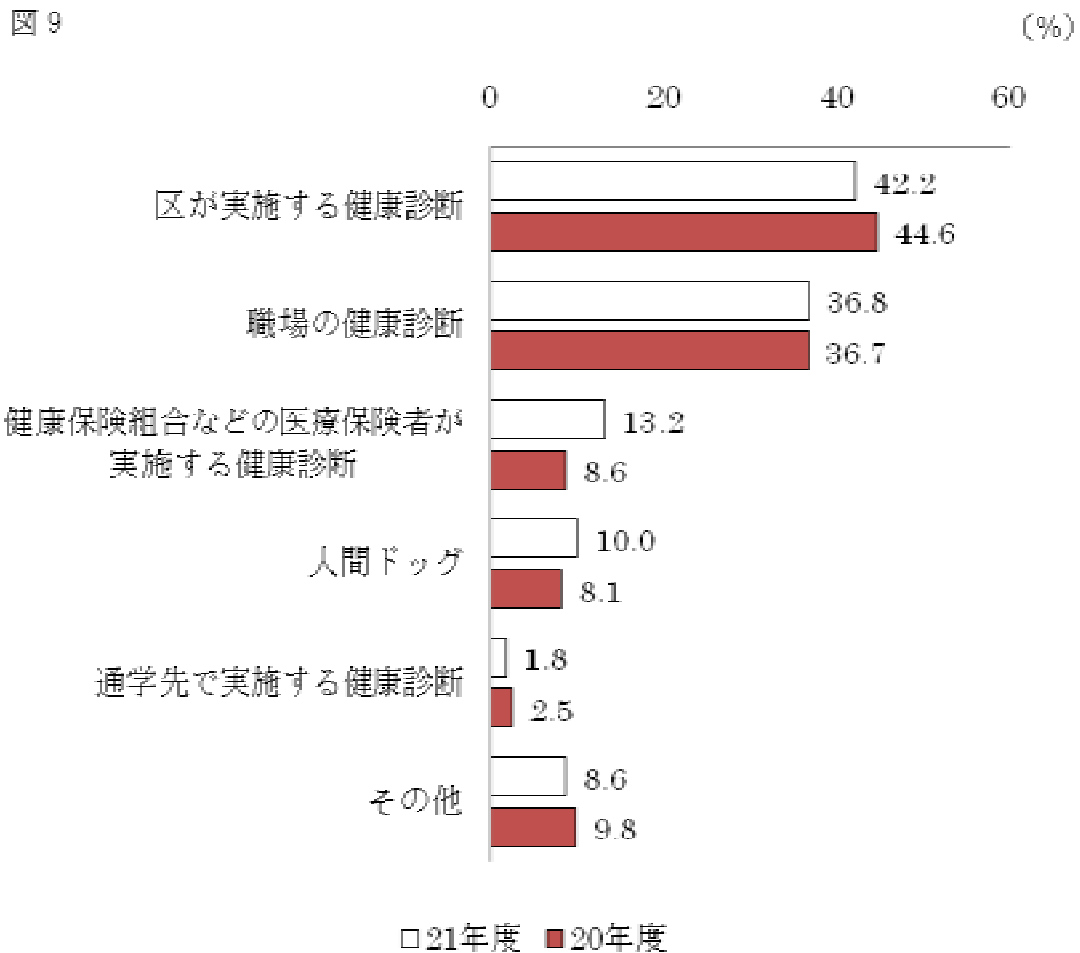
「国民生活基礎調査（平成19年）」（厚生労働省大臣官房統計情報部）

「都民の生活実態と意識 平成18年度」（東京都福祉保健基礎調査）



## 7 健康診断の受診場所

健康診断の受診場所については、区実施の健康診断を受ける人の割合が減少する一方、健康保険組合などの医療保険者が実施する健康診断を受ける人や人間ドッグを受診する人の割合が大きく増加しました。(図9)



出典：

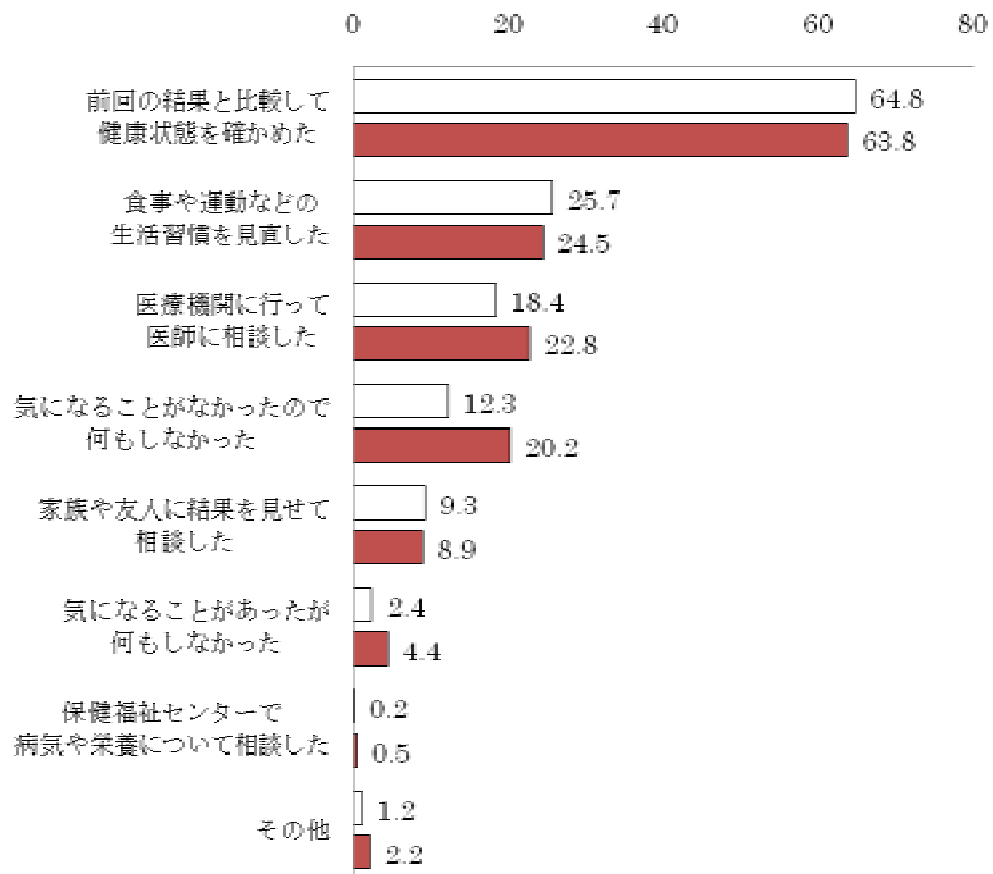
「平成21(2009)年度保健福祉に関する意識調査報告書」P33

「平成20(2008)年度保健福祉に関する意識調査報告書」P23

## 8 健康診断結果の活用

健康診断の結果の活用方法として、「前回の結果と比較して健康状態を確かめた」、「食事や運動などの生活習慣を見直した」と答えた人は若干増加、「気になることがあったが何もしなかった」と答えた人の割合は若干減少し、何らかの形で健康診断の結果を活用している人の割合は増加しました。しかし、「医療機関に行って医師に相談した」と答えた人の割合は減っています。(図10)

図10 (％)



□21年度 ■20年度

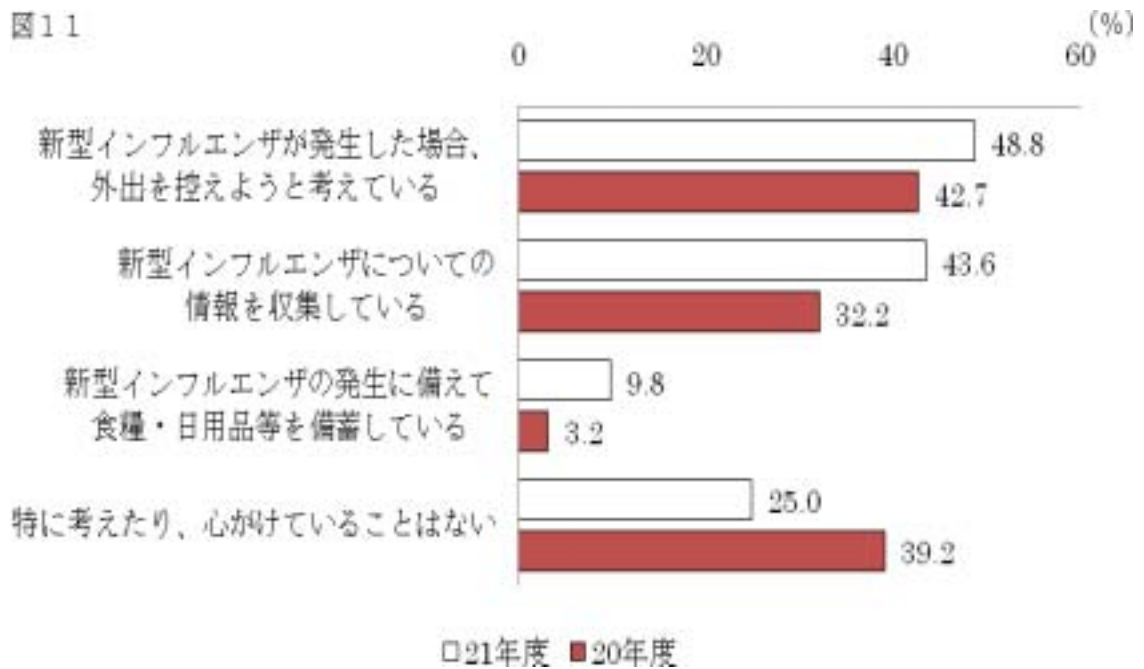
出典：

「平成21(2009)年度保健福祉に関する意識調査報告書」P37

「平成20(2008)年度保健福祉に関する意識調査報告書」P25

## 9 新型インフルエンザについて考えたり、心がけていること

新型インフルエンザについて考えたり、心がけていることについてたずねたところ、何らかの対応を考えている人の割合が大きく増加し、新型インフルエンザへの意識の高まりが反映される結果となりました。(図11)



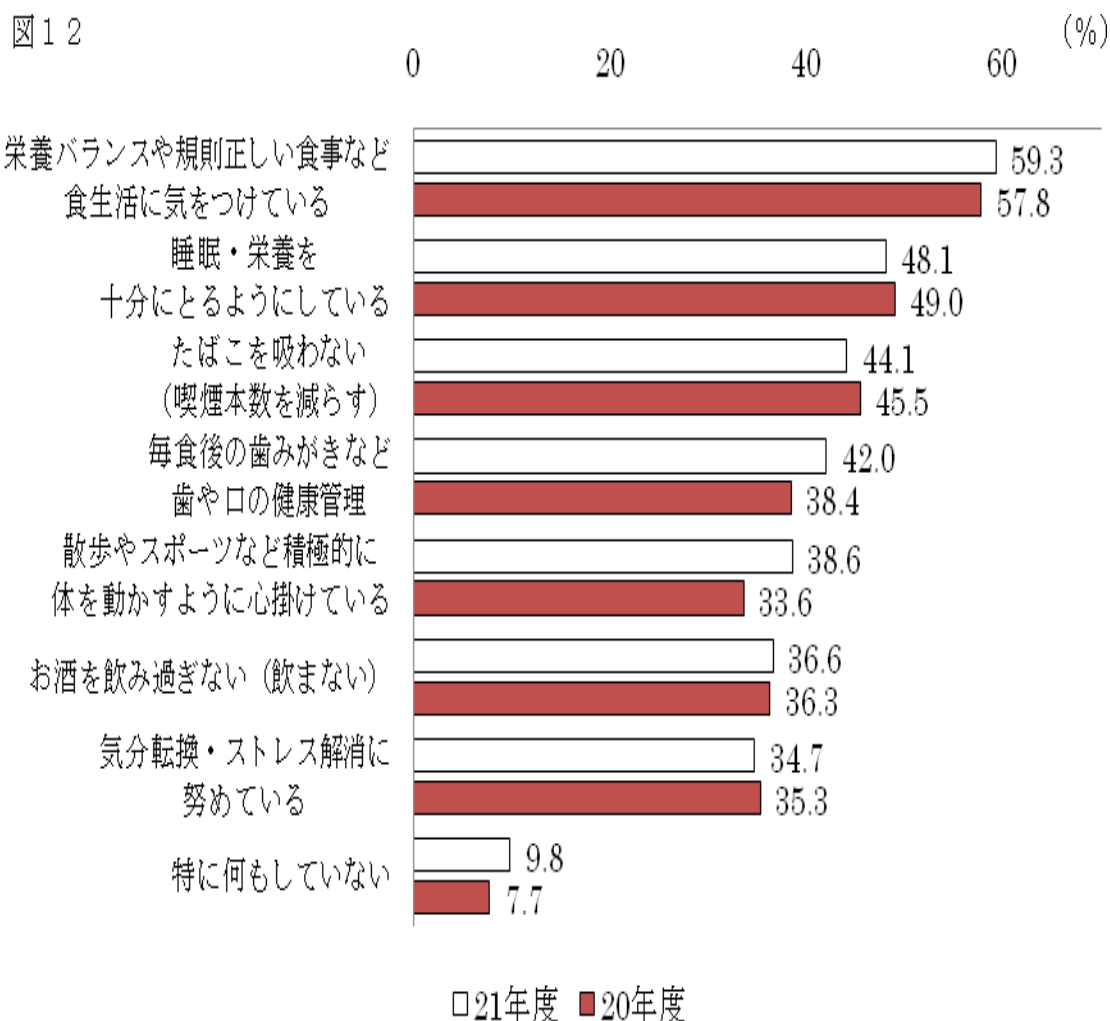
出典：

「平成21(2009)年度保健福祉に関する意識調査報告書」P43

「平成20(2008)年度保健福祉に関する意識調査報告書」P28

## 10 生活習慣病予防のために、実行していること

昨年度と比べ、「特に何もしていない」や「たばこを吸わない(喫煙本数を減らす)」といった項目で生活改善の取組みに低下傾向が見られましたが、全体としては生活習慣病予防のために何らかの行動を行っていると感じた人の割合は増加しています。(図12)



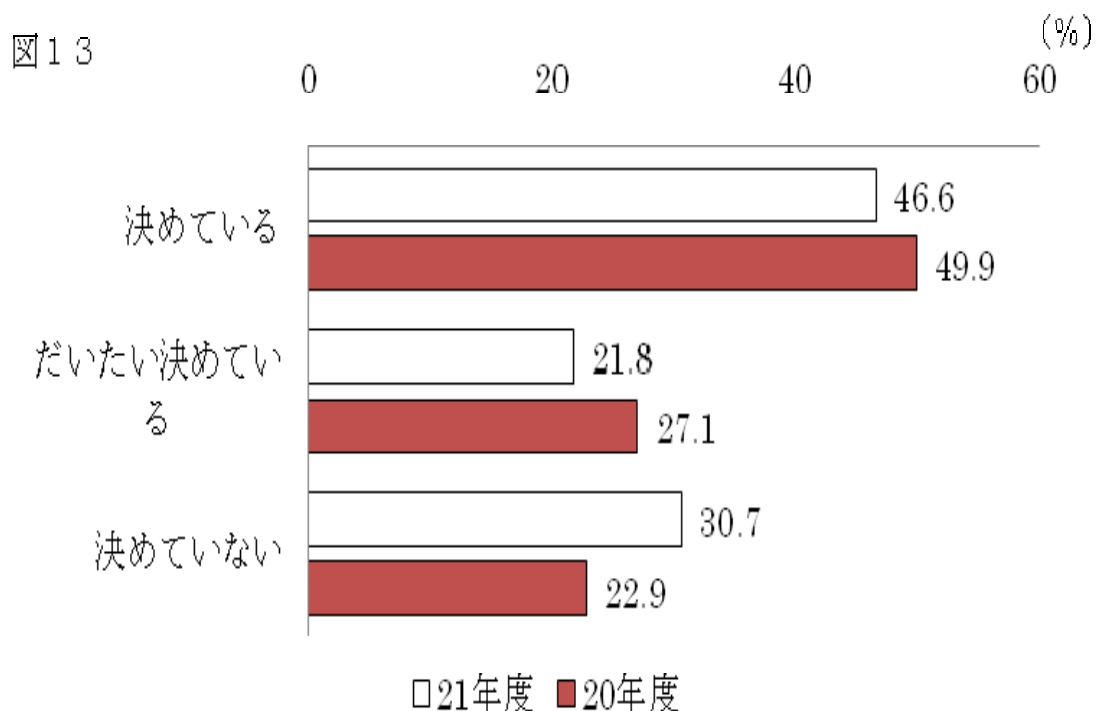
出典：

「平成21(2009)年度保健福祉に関する意識調査報告書」P46

「平成20(2008)年度保健福祉に関する意識調査報告書」P30

## 1.1 かかりつけの診療所の有無

今年度は「近所の」と条件を付したこともあり、かかりつけの診療所の有無について、「決めている」「だいたい決めている」と答えた人の割合は、昨年度と比べ減少しました。(図1.3)



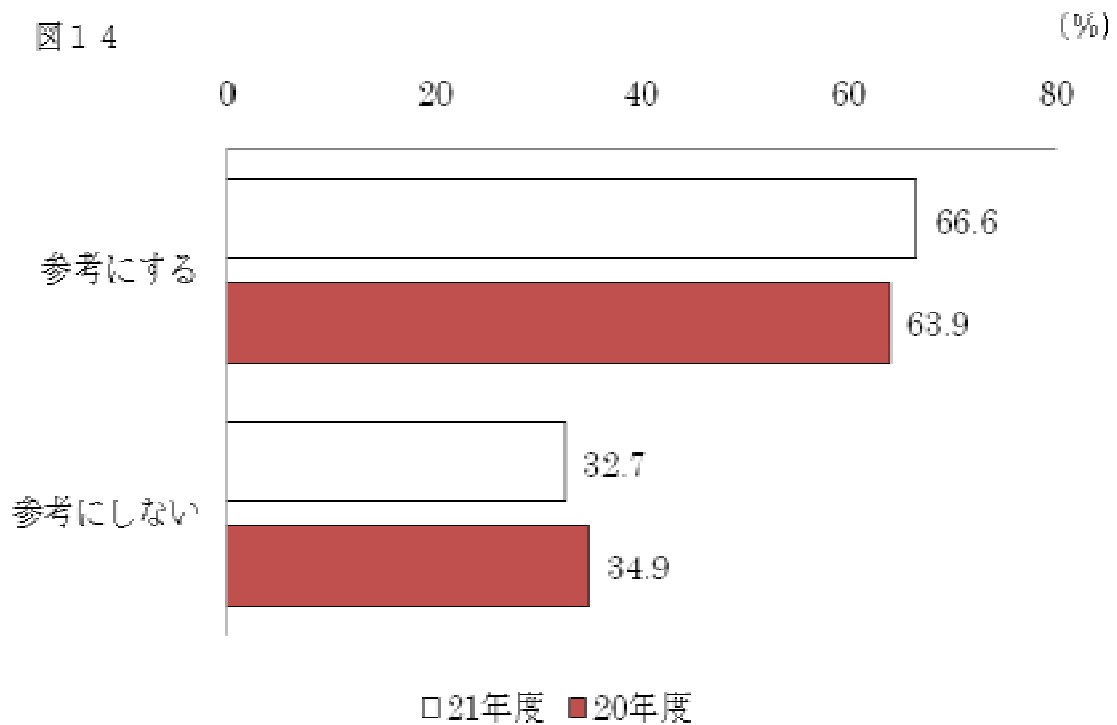
出典：

「平成21(2009)年度保健福祉に関する意識調査報告書」P50

「平成20(2008)年度保健福祉に関する意識調査報告書」P33

## 1 2 栄養成分表示の参考

栄養成分の表示を「参考にする」と答えた人の割合は 2.7 ポイント増加し、生活習慣病予防の意識と相まって、健康への関心が高まっています。(図 1 4)



出典：

「平成 2 1 ( 2 0 0 9 ) 年度保健福祉に関する意識調査報告書」P57

「平成 2 0 ( 2 0 0 8 ) 年度保健福祉に関する意識調査報告書」P35

### 1.3 うつ病に関して相談することへの抵抗感

昨年度と比較して、「相談することには特段の抵抗は感じない」と答えた人の割合が6.9ポイント減少しましたが、かかりつけ医や専門医療機関、職場や学校での心理相談での相談への抵抗感を示す人の割合は減少し、全体としてはうつ病に関する相談への抵抗感はうすらいでいます。(図15)

図15



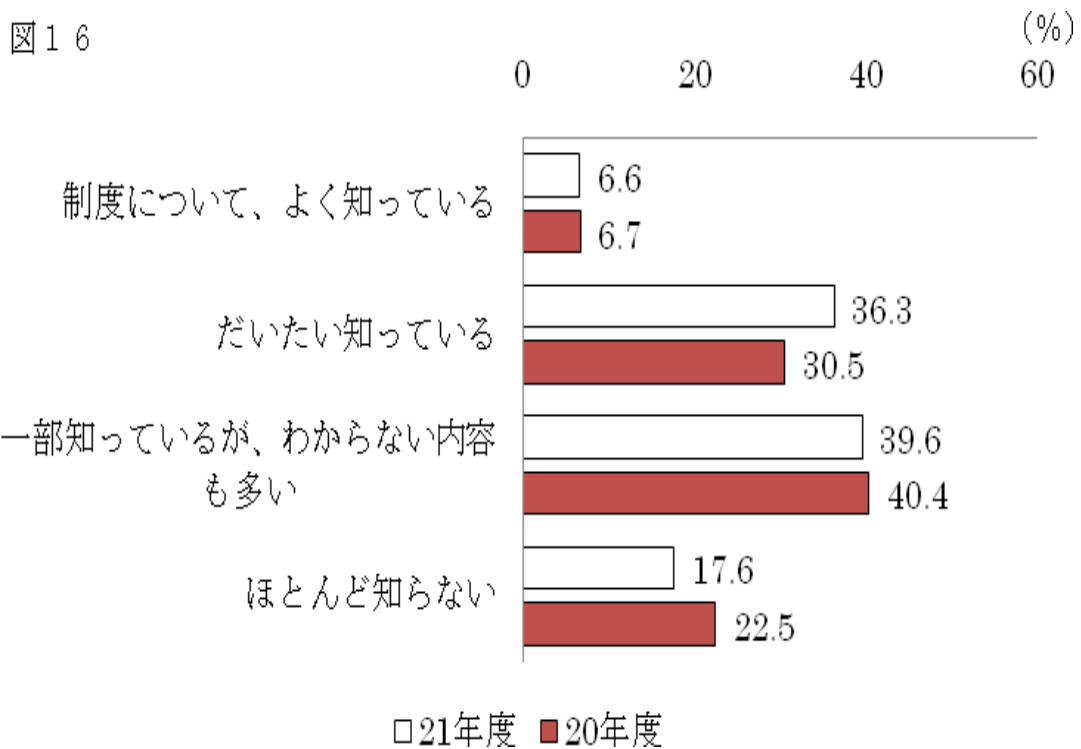
出典：

「平成21(2009)年度保健福祉に関する意識調査報告書」P62

「平成20(2008)年度保健福祉に関する意識調査報告書」P51

## 1 4 国民健康保険のしくみを認識している割合

国民健康保険のしくみを認識している割合については、「ほとんど知らない」と答えた人の割合が減少、「だいたい知っている」と答えた人の割合が増加と、全体としては、昨年度より認知度が高まっています。(図16)



出典：

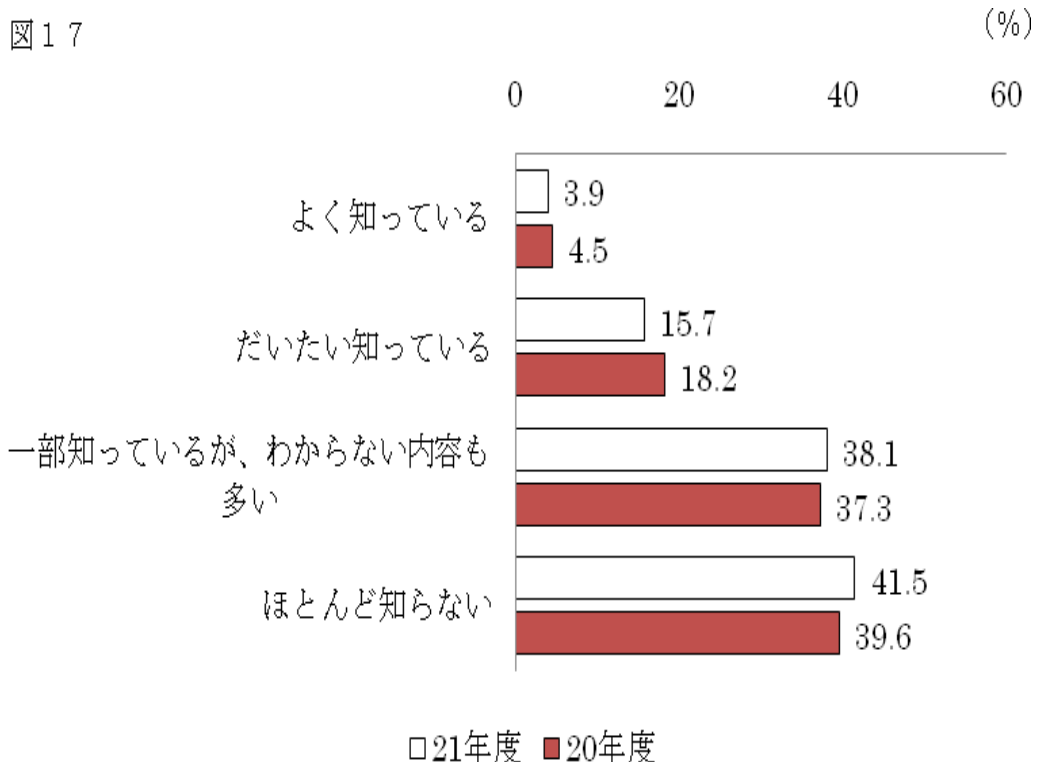
「平成21(2009)年度保健福祉に関する意識調査報告書」P65

「平成20(2008)年度保健福祉に関する意識調査報告書」P57



## 15 介護保険制度のしくみを認識している度合い

介護保険制度のしくみを認識している度合いについては、昨年度と比べて「ほとんど知らない」と答えた人の割合が1.9ポイント増加し、引き続き、4割の人に制度が知られていないことがわかりました。

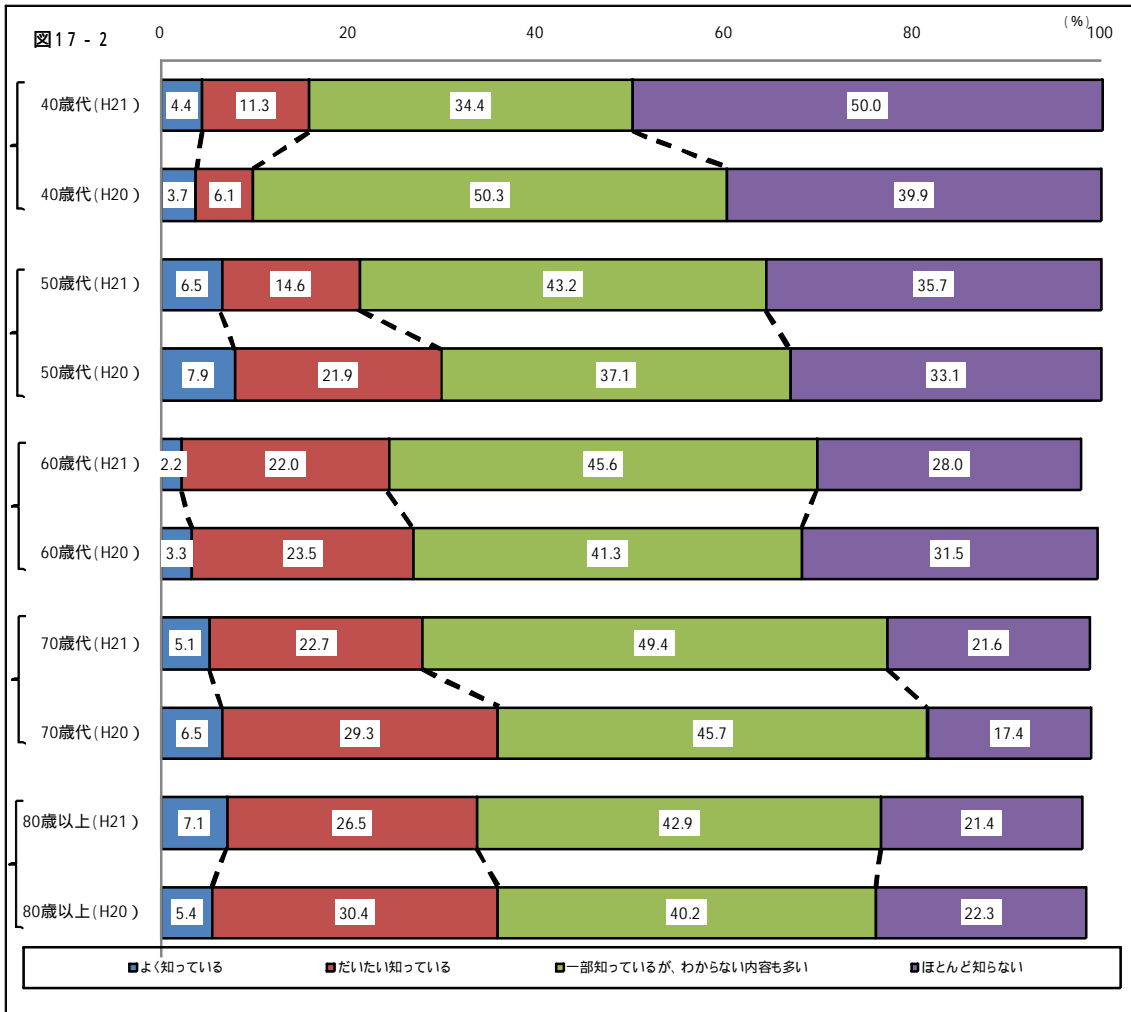


出典：

「平成21(2009)年度保健福祉に関する意識調査報告書」P67

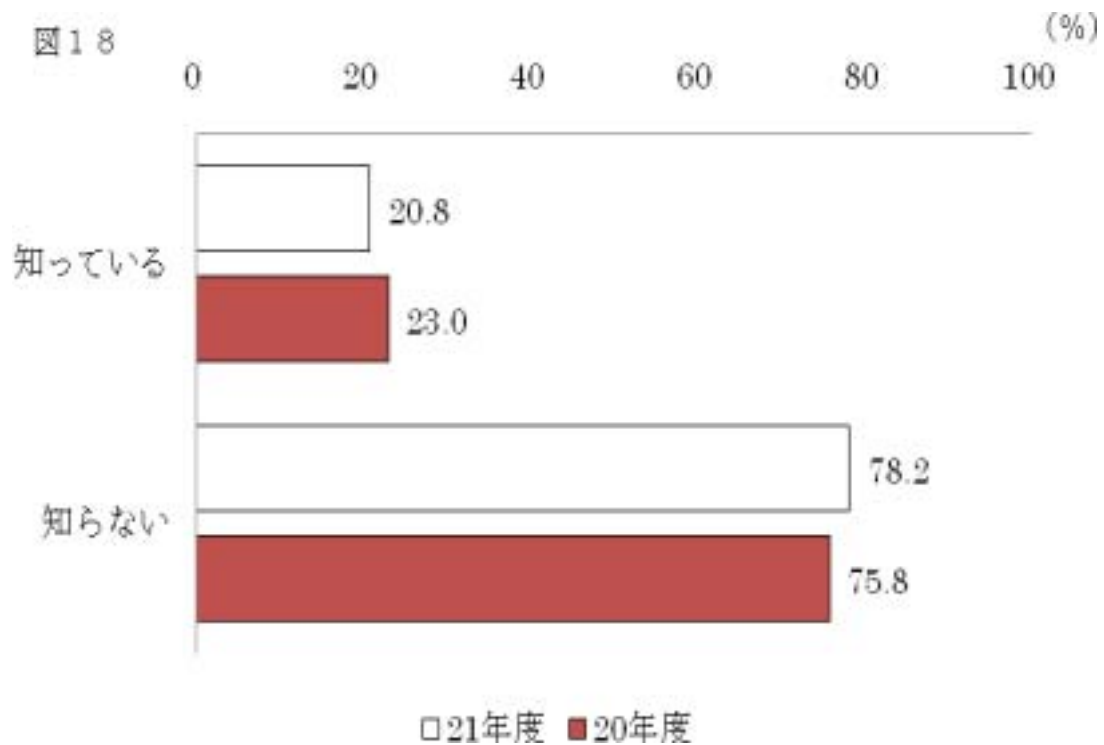
「平成20(2008)年度保健福祉に関する意識調査報告書」P77

なお、年代別に比較すると、「ほとんど知らない」と答えた40歳代の人の割合が10ポイント以上増加し、50%となったことがわかりました。(図17-2)



## 16 地域包括支援センターを認識している割合

地域包括支援センターを認識している割合については、全体的には変わらず、「知らない」と答えた人の割合は8割弱を占めています。

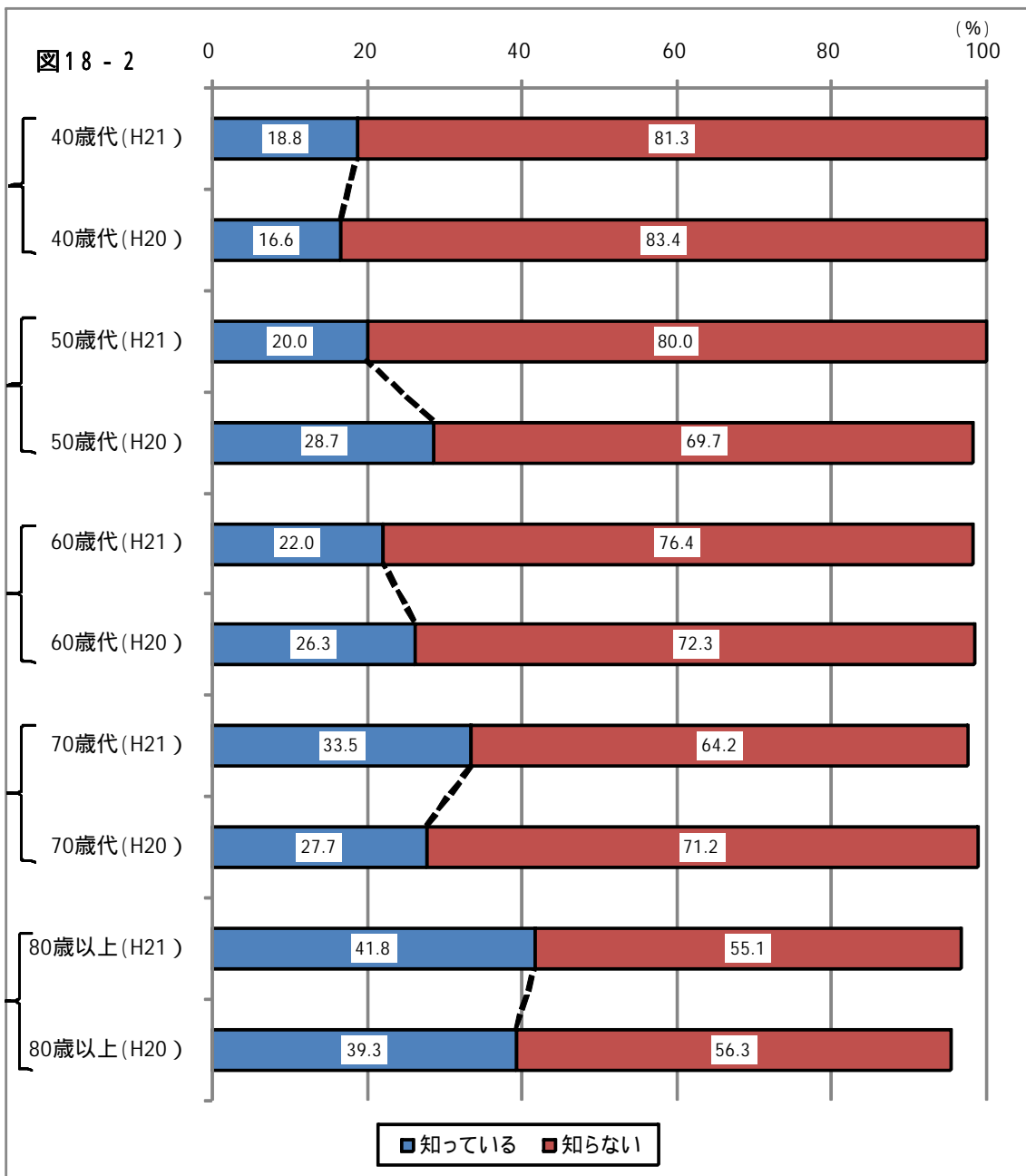


出典：

「平成21(2009)年度保健福祉に関する意識調査報告書」P73

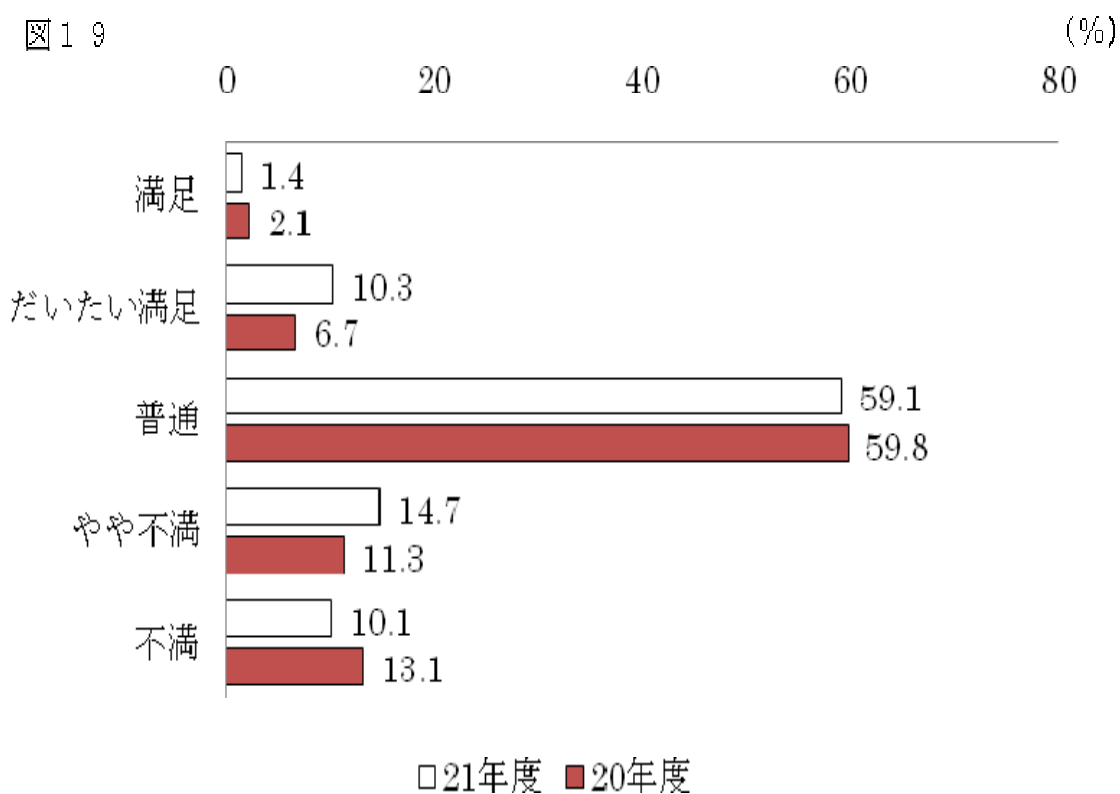
「平成20(2008)年度保健福祉に関する意識調査報告書」P82

なお、年代別に比較すると、70歳代、80歳以上では認知度が増加しているが、50歳代、60歳代では減少しています。(図18-2)



## 17 中野区の保健福祉施策についての満足度

中野区の保健福祉施策について、「満足」と答えた人と「だいたい満足」と答えた人の両者を合わせたものを“おおむね満足”とすると、“おおむね満足”は8.8%から11.7%と、2.9ポイントの増加となっています。(図19)



出典：

「平成21(2009)年度保健福祉に関する意識調査報告書」P94

「平成20(2008)年度保健福祉に関する意識調査報告書」P91